

平成29年第1回定例会（6月議会）
建設部 提出資料（6月19日）

建設委員会

【所管関係】

○ 建設部	あきた公共施設等総合管理計画に係る インフラ施設の個別施設計画（案）一覧	・ ・ ・ ・	1
	【公園】個別施設計画（案）の概要	・ ・ ・ ・	別紙1
	【空港】個別施設計画（案）の概要	・ ・ ・ ・	別紙2
○ 港湾空港課	秋田港長期構想の中間報告について	・ ・ ・ ・	2

あきた公共施設等総合管理計画に係るインフラ施設の個別施設計画（案）一覧

平成29年6月19日

建設部

○建設部所管のインフラ施設については8類型、12施設の個別施設計画を平成31年度まで策定予定

○一覧は、策定が終了した3施設の個別施設計画（案）の概要

所管 部局	施設 類型	個別施設 計画	対象施設概要	計画 期間	対策の主な内容	計画期間内 の概算額 (百万円)
建設部	空港	秋田空港	供用開始 S56.6 滑走路 2,500m 誘導路、エプロン、 標識、他	H27 ～ H56	・舗装改良 H31～H33 滑走路 H29以降 誘導路 H34以降 エプロン	4,700
		大館能代 空港	供用開始 H10.7 滑走路 2,000m 誘導路、エプロン、 標識、他	H27 ～ H56	・舗装改良 H31～H33 滑走路 H33以降 誘導路 H46以降 エプロン	1,700
	公園	公園	小泉瀉公園 S50 (63.7ha) 中央公園 S55 (133.2ha) 北欧の杜公園 H6 (93.6ha)	H29 ～ H38	・小泉瀉公園 H35 テニスコート人工芝更新 ・中央公園 H30以降 スカイドーム膜屋根更新 H32 スポーツゾーン給水設備更新 ・北欧の杜公園 H31 第1休憩所更新、H33 受水槽更新 ・共通 更新時には集約化も検討	3,975

※～参考～ 他部局が所管するインフラ施設の個別施設計画（案）の概要

警察 本部	交通 安全 施設	信号機	1,897 基	H29 ～ H37	・毎年度更新するおおむねの施設数 信号制御機 100 基 信号灯器 480 灯 信号柱 130 本	3,528
		大型道路 標識	2,488 本	H29 ～ H37	・大型標識の新設及び建て替えは抑制し、路 側標識で対応する 大型標識の撤去を毎年度おおむね 100 本	284
産業 労働部	公営 企業 施設	電気 (水力発電 所)	鎧畑、他 16 発電所 最大 110,650kW	H27 ～ H31	・総分解点検を順次実施 H29 素波里発電所（藤里町） H30 板戸発電所（湯沢市） H31 八幡平発電所（鹿角市）	16,533
		工業用 水道	取水施設、浄水施設、 送配水施設 ・勝平系統 ・御所野系統	H27 ～ H31	・秋田臨海工業地帯（勝平系）の送水管 2 系 統化の設備の改良 ・秋田臨海工業地帯（勝平系）のバルブ開閉 機修繕	3,060

秋田港長期構想の中間報告について

平成29年6月19日
港 湾 空 港 課

1 概 要

- ・秋田港は、平成17年に策定した長期構想及び平成18年に改訂した港湾計画（目標年次：概ね平成32年）に基づき整備を進めているが、既に10年が経過
- ・この間、石炭火力発電所の進出計画や大型クルーズ船等の寄港回数の増加など、港湾の利用環境が大きく変化している状況
- ・このため、学識経験者、地域住民、港湾利用者等からなる委員会を設置し、秋田港の20～30年先を見据えた新たな長期構想を策定中
- ・長期構想は、港湾計画改訂に先だち策定するもので、10～15年先を目標とする港湾計画を内包

2 現状及び課題

- ①石炭火力発電所の進出等による新たな土地需要への対応
- ②クルーズ船の寄港回数増加への対応
- ③東南アジアの経済発展等に伴い増大が見込まれるコンテナ貨物への対応
- ④周辺企業や風力発電等の事業拡大に伴い増大する取扱貨物への対応

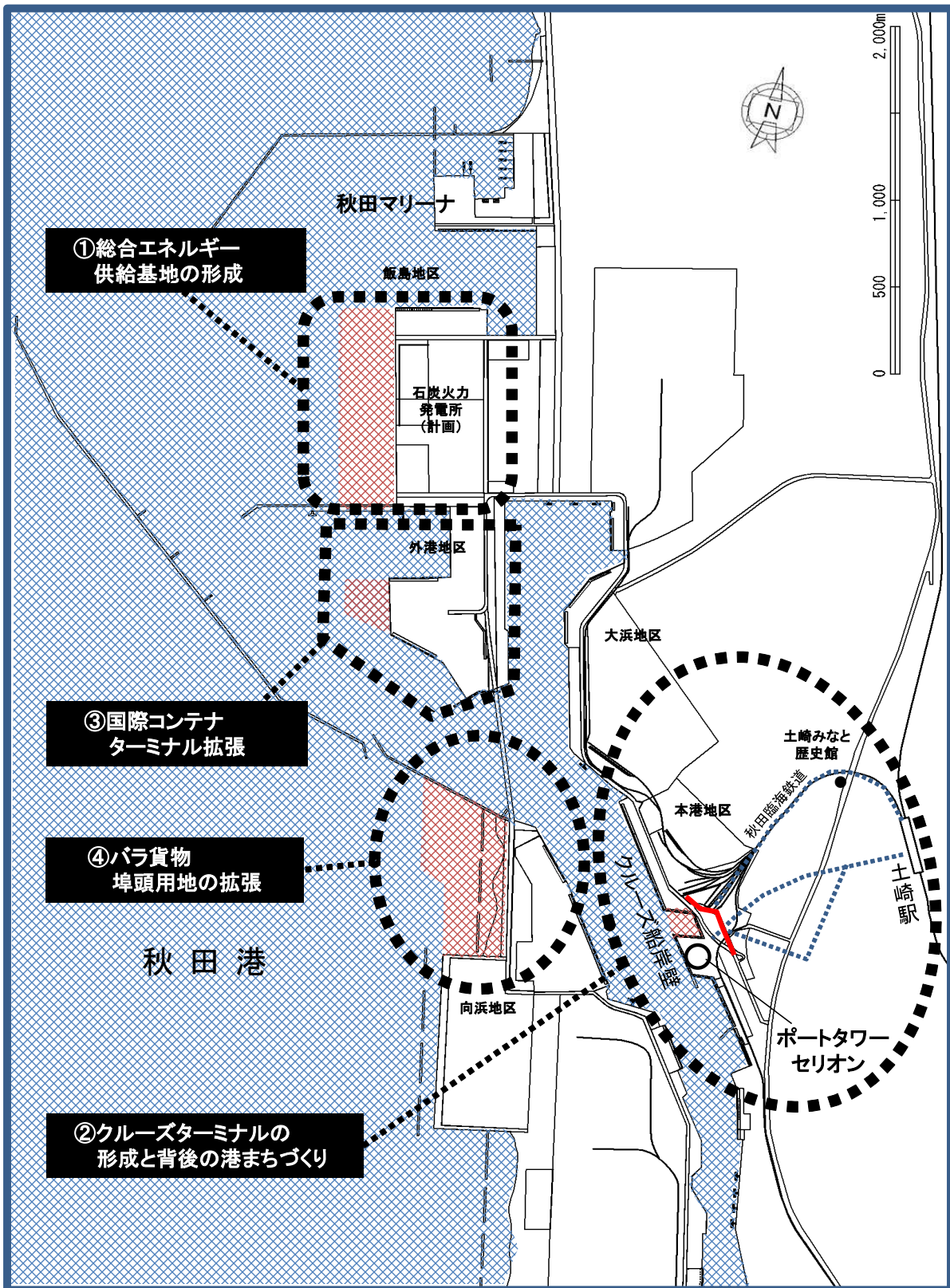
3 長期構想に取り込む予定の主な施策

- ①石炭火力発電等の総合エネルギー供給基地の形成
- ②ポートタワーセリオンを中心とするクルーズターミナルの形成と背後のまちづくり
- ③外港地区国際コンテナターミナルの拡張
- ④周辺企業のバラ貨物と風力発電資材等を取り扱う埠頭用地の拡張

4 スケジュール

- ・第1回委員会では秋田港の現状の課題等を分析し、将来のあるべき姿、果たすべき役割等を踏まえた、中・長期的施策を抽出
- ・第2回委員会では地区毎に具体的なイメージを提示し、現在、県ホームページ等でパブリックコメントを募集中
- ・第3回委員会（8月1日開催予定）を経て長期構想を平成29年度内に策定し、引き続き平成30年度内に港湾計画を改訂予定

項 目	平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度		
秋田港 長期構想				▼第1回委員会(9月)			▼第2回委員会(3月)			▼第3回委員会 (8月1日予定)		
秋田港 港湾計画改訂							[スケジュール表示領域]					





長期構想に取り込む予定の主な施策

【公園】個別施設計画（案）の概要

①施設の概要	施設名称	県立小泉湯公園 	県立中央公園 	県立北欧の杜公園 
	所在地	秋田市	秋田市	北秋田市
	施設面積	63.7ha	133.2ha	93.6ha
	主要施設	テニスコート、水心苑、フィールドアスレチック、多目的広場	陸上競技場、野球場、人工芝テニスコート、屋根付グラウンド（スカイドーム）、宿泊棟、トレーニングセンター、フィールドアスレチック	パークセンター、オートキャンプ場、パークゴルフ場、テニスコート
	建設年	昭和50年（同年供用、42年経過）	昭和55年（昭和56年供用、36年経過）	平成6年（同年供用、23年経過）
②計画期間	平成29年～平成38年（10年間）			
③対策の優先順位の考え方	○県地域防災計画において、県立中央公園運動広場および県立北欧の杜公園が「集結場所・ベースキャンプ」に、県立中央公園スカイドームが「一次物資集積拠点」に指定されていることから、これらの施設について修繕の必要が生じた場合は、優先的に維持修繕を行う。 ○その他の施設については、経過年数、劣化状況、利用者数などを考慮し、優先度の高いものから順次更新・修繕を行う。			
④個別施設の状態等	○老朽化が進行し、利用中止となっている施設がある。 ○供用開始から42年が経過し、公園施設が老朽化していることから、更新・補修が必要である。  木部材の腐食(フィールドアスレチック遊具) ○供用開始から36年が経過し、公園施設が老朽化していることから、更新・補修が必要である。  木部材の腐食による割れ(フィールドアスレチック遊具) ○供用開始から23年しか経過していないこともあり、大規模な更新・補修はまだ予定していないが、公園施設の老朽化は進んでおり、更新・補修は必要である。  金属部材の腐食(遊具)			
⑤対策内容、実施時期	○基本的には長寿命化計画に基づき、更新・修繕を継続する。 ○利用中止となっている施設を計画的に更新する。 ○施設更新の際には、限りある予算の中で現状の環境を維持するため、集約化によって施設数を減らすことも検討する。（例：便所、四阿など）			
	○大規模修繕としては、H35にテニスコートの改修を予定している。	○大規模修繕としては、H30以降にスカイドーム膜屋根更新、H32にスポーツゾーン給水設備の更新、H34～H35に人工芝テニスコート改修を予定している。	○大規模修繕としては、H31に休憩所の更新、H33に受水槽の更新を予定している。	
⑥対策概算費用（H29～H38）	約6.2億円	約27.8億円	約5.7億円	

【空港】個別施設計画(案)の概要

①対象施設の概要	施設名称	秋田空港 	大館能代空港 
	所在地	秋田市	北秋田市
	航空法で規定されている施設	滑走路2,500mの他、着陸帯、誘導路、エプロン(駐機場)、飛行場標識施設	滑走路2,000mの他、着陸帯、誘導路、エプロン(駐機場)、飛行場標識施設
	その他航空機能を確保するため必要な施設	舗装施設(場周道路等)、用地施設(法面等)、エプロン標識施設、排水施設、道路・駐車場施設 等	
	供用開始年月	昭和56年6月	平成10年7月
②計画期間	平成27年度～平成56年度(30ヶ年)		
③対策の優先順位の考え方	○空港施設に異常があった場合、人命や航空機事故、運航の可否に直結するため、異常を予見し安全な状態で運営できる維持管理を行っていく必要がある。 ○このため、空港各施設ごとに供用年数の長さや運航に及ぼす影響度に応じて巡回点検の回数を増やすこととしており、施設ごとに点検頻度を定めている。		
④個別施設の状態等	<p>○施設の状態は、人命や航空機事故、運航の可否に直結するため、計画的な施設の維持管理・更新に基づく事業実施が必須である。</p> <p>○供用開始から36年が経過し、各施設が老朽化していることから、更新・補修が必要である。</p> <p>○滑走路状態写真</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>ひび割れ状況</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>標識の薄れ状況</p>  </div> </div>		<p>○供用開始から19年が経過し、各施設が老朽化していることから、更新・補修が必要である。</p> <p>○滑走路状態写真</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>標識の薄れ状況</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>ひび割れ補修状況</p>  </div> </div>
⑤対策内容、実施時期	<p>○各空港の維持管理・更新計画に基づき、更新・修繕を継続する。</p> <p>○大規模な施設更新は、H31年度以降、滑走路の舗装改良を計画している。</p>		
⑥対策概算費用(H27～H56)	○滑走路、誘導路、エプロン:約47億円		○滑走路、誘導路、エプロン:約17億円